

保護者の皆様

県立市ケ尾高等学校
校長 田中 俊穂

令和 6 年度第 2 回「生徒による授業評価」集計結果について

令和 6 年 12 月、本校生徒に対し「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

1 授業評価の概要と結果

(1) 評価項目

大項目	設問	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

(2) 評価

(1) の項目について次の 4 段階で評価を行った。

- 4 かなり当てはまる 3 ほぼ当てはまる
2 あまり当てはまらない 1 ほとんど当てはまらない

(3) 集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が肯定的な回答（評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」）の割合を算出した。教科ごとに肯定的な回答の割合が 最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字 で明示した。

(4) 各教科の小項目の肯定的な回答の割合

設問	1	2	3	4	5	6	7
国語	88.8%	92.4%	90.7%	<u>83.6%</u>	91.7%	90.5%	90.0%
地歴・公民	88.4%	89.2%	90.4%	<u>86.6%</u>	88.8%	91.9%	95.1%
数学	87.3%	<u>79.8%</u>	89.7%	92.9%	79.9%	88.5%	92.4%
理科	85.6%	75.5%	88.0%	85.0%	<u>72.4%</u>	86.8%	88.7%
保体	91.9%	90.1%	93.9%	91.8%	<u>89.8%</u>	93.0%	93.9%
芸術	93.5%	93.5%	93.9%	94.6%	93.7%	92.3%	<u>91.1%</u>
外国語	90.3%	90.9%	90.8%	92.2%	<u>89.1%</u>	89.6%	94.2%
家庭	94.7%	<u>94.3%</u>	95.3%	95.9%	95.0%	95.6%	96.9%
情報	92.3%	<u>84.2%</u>	89.2%	92.6%	86.5%	93.3%	92.9%

※塗りつぶし太字は教科内で最も割合の高いもの、下線は教科内で最も割合の低いものを表します。

各教科の分析と改善の手立て

	分析	改善の手立て
国語	設問2の【単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。】が最も高く48.2%となった。本年度の一年生に関しては、言語文化の科目の中で現代文、古文に関わらず「言語の歴史やバックグラウンドを追う」ことにフォーカスをあて、より対話的な授業を取り入れたことなどがこの結果に結びついた可能性がある。一方で、設問4の【授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することができた。】が最も低く34.2%となった。知識の習得だけではなく、他者の意見を「聞く」アプローチを授業内に多く取り入れて、理解をしあえる授業、思考力・判断力を養う教育を今後は心がけていきたい。楽しい授業の中にも「学び」が含まれることが重要であり、活動に学習の意義を中心に据えた授業づくりを教科全体で深めていく必要があると考えている。	・多様性をさらに教員側が理解し授業を展開する必要がある、それには生徒の思考力や他者の意見を受容する地盤づくりをする必要がある。「分析」でも示したように、他者の考えを聞くことを主眼とした生徒間や教員も交えた「対話的な学び」の機会をより増やしていく。 ・単元ごと、授業ごとに、学習のねらいの提示や授業の振り返りを実践に行うことによって、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の機会をさらに増やしていく。 ・古典文学や近代文学、詩歌、和歌などの「感じ方」の共有を主とした単元をさらに多く取り入れ、それを批評する文章等を交えながら読みを深めることによって、横断的な学問的思考を涵養していく。
地歴 公民	・全ての設問について、第1回のアンケート結果に比べ「4の割合」が5～10%近く増えており、授業の在り方や学習状況について、前回の改善の手立てが奏功したと考えられる。 ・特に、前回低かった設問4(29.7%)が39.1%と上昇した背景には、既知の知識を活用しながら主体的に考え、授業内容を振り返る機会を充実させたことやその手法としてペアワークやICTの活用を行い、生徒の理解度が向上したことにありと考えられる。しかし、依然として設問4の値が最も低いことから、より既習事項をベースにして、次の単元と関連付けた授業展開を考える必要がある。	以下の取り組みを行うことで設問4の数値向上を図る。 ・ペアワークやICTを活用することで、授業時間を圧迫することなく、生徒が与えられた問いに対して、既知の知識を活用しながら主体的に考え、授業内容を振り返る機会を充実させていく。 ・各教科で、単元ごとに基軸となる問いを設定する際に、年間指導計画を意識した問いを設定することで、単元間のつながりを意識した授業を展開する。
数学	第一回のアンケートとあまり変わらない結果となった。設問4と設問7の項目の値が高く、設問2と設問5の項目の値が低い。前回の結果を踏まえ、共有の時間を増やすなどの工夫は行ったが、解答が終わっている生徒でも自分の解答に自信がなく、他者に自分の考えを紹介出来ないことが原因だと考えられる。これにより設問5の他者の考えを知る機会が増えていないことにつながっているのではないかと。	自分の考えが正解かどうかは問題ではなく、他者の考えから新たな発見や考え方が浮かぶことは多くあるため、正解にこだわらず互いに自分の考えを伝えられるよう指導したい。また、大学共通テストの類題など、思考過程がより問われるような演習問題の扱いを取り入れていくことを継続する。
理科	第1回のアンケート結果と同様に、「設問7、授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。」において「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合が他の項目と比較して高かった。一方で「設問5、他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」において「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合は他の項目と比較してやや低かった。設問7で肯定的な回答の割合が高いことから、生徒は授業で学んだ知識をよく復習し、活用できていると考えられる。一方で設問5を改善することで、他者の意見を取り入れ、学んだ知識を多面的・多角的な視点で考えられるようになれば、学習の質がより高まると考えられる。	「設問5」の改善に向けて、自分の考えを他者と共有する機会を設ける機会は各教科で設ける工夫を行っているため、その際、生徒が自ら考え他者と話し合うことで多様な視点を取り入れ、学習理解を深められるような良質な問いを教員が設定できるよう工夫する必要があると考えられる。また、他者の考えをもとにさらに自分の考えを深める時間をつくるなど、考えて共有した後の工夫もしていく。
保健 体育	設問3【単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。】が「かなり当てはまる」の高い割合で、設問7【授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。】が「かなり当てはまる」の割合は低くなっているという、前回と同様の結果であった。 やはり、教科の特性から保健であれば、1時間ごとに単元が変わったり、体育であれば、種目が変わったりすることから、「かなり当てはまる」の割合が低くなっている状況は続いていると考えられる。	教科の特性を考えると改善が難しい部分もあるが、設問7の改善策として、保健では単元が違って共通している内容があるのでそこを強調して扱う。また他の教科で扱う内容もあるので、そこに授業内で触れていく。 体育ではその年度の指導で終わるのではなく、昨年度に学んだであろう内容を活用しながら段階的な指導を行っていく。特にその種目の専門的スキルではなく身体の動かし方そのもののコツを掴めるような指導を心がける。
芸術	・全ての項目について、「かなり当てはまる」の割合が増加している。また、「ほぼ当てはまる」を含めると割合は90%以上となる。前回の改善の手立ての成果が出ていると考えられる。 ・特に設問5「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」は、「かなり当てはまる」の割合が13.4%増加している。意見交換の機会や発表などの場面を題材に応じて取り入れたためと考えられる。 ・項目6「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。」が42.7%で一番割合が低くなっている。取り扱った題材の特性上、知識を得た、考えをまとめた、という実感が得られない内容だったことが考えられる。	・引き続き、実技教科の特性を活かし、自ら考え表現する課題構成、授業展開を実践していく。また、課題間の繋がりについて、過去に行った課題内容から、どのような点を新たな課題に活用して取り組むことができるかを丁寧に伝えていく。 ・授業内で知識を得る場面、考えをまとめる場面、などの説明を丁寧に言い、題材の取り組み内容への理解を深められるよう心掛ける。
外国語	設問7の数値が今回最も高い数値となった。このことは、授業中もしくは自宅学習で既習事項を復習する時間が十分に設けられており、それらを新たな単元の学習時に関連付ける授業展開ができた結果だと思われる。 ・設問2の数値が前回の結果同様に高い傾向にあるため、授業中に他者とのコミュニケーションの時間が十分に設けられているからではないかと。 ・設問6の数値が低い傾向にあるのは、講義やワーク等での時間が多く、自らの考えをまとめる時間が十分に設けられていないからだと考えられる。	・既習事項をさらに定着させるために復習する時間を確保していく。また、新たな単元との関連性を生徒に考えさせるような授業づくりを続けていく。 ・授業中での言語活動を通して、他者とのコミュニケーションの中で伝達能力を高め、自らの考えを拡充することや自らの考え方を深めたりすることができるような「対話的な学び」の機会をさらに増やしていく。 ・講義内容の精選により、自らの考えを振り返り拡充させる時間を確保する。
家庭	・全ての項目において肯定的な評価の割合が高く、すべての設問において「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が約95%であった。本校教科目標である「生活のなかから課題を見出し解決する能力を身に付ける」という点を意識して授業を行っており、毎時間「実生活で活かせること、何が課題か」を考えさせている成果が得られたものとみられる ・設問5「他者の考えを知り、自らの考えをひりび深めることができた」が他の設問と比較して「かなり当てはまる」の割合が若干低くなっているが、学習分野が被服実習として個人作業となるメッシュケースの製作であったため意見交換の場が少なかったためと考えられる。	・今後も日常生活と関連させながら、課題を意識させる授業展開を継続しておこなう。3学期は、住生活分野では1学期に学習した人生設計を元に、将来の理想の住居を考え簡単な平面設計図を製作する。食生活・住生活・消費生活などの単元において、より身近に感じられ、日常生活において課題意識を持ち解決できる力を身につけられるような授業内容を研究し展開していく。
情報	・すべての質問で「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」が85%を超えていた。唯一、質問2については、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」が85%を切っていた。これは、2学期はグループ学習がなく、他者との関わりの中で自分の意見を出す単元がなかったためだと推測できる。 ・自由記述では、実習のスピードが速いという指摘が今回もあった。実習スピードの調整は非常に難しく、今後もこの課題は継続して研究していく必要がある。（一番遅い生徒に合わせたのが授業進度を考えると難しい）	・2学期の内容が知識・技能中心だったためグループワークの学習ができなかった。他者の意見を聞く時間を満遍なく配置するには、単元の順番などを考える必要がある。 ・情報モラルや情報社会の分野を実習で考えさせる内容に変えていきたい。 ・3学期は、実習を中心とした授業を実施していく。それに伴い、PCスキルを上げる実習を入れたい。 ・継続して、単元の目標を提示して授業に入りたい。

2 教科別・項目別評価「4 かなり当てはまる」「3 ほぼ当てはまる」の割合

設問		1	2	3	4	5	6	7
国語	3	48.8%	<u>44.2%</u>	48.3%	49.3%	46.5%	51.2%	51.3%
	4	39.9%	48.2%	42.5%	<u>34.2%</u>	45.2%	39.3%	38.7%
	3+4	88.8%	92.4%	90.7%	<u>83.6%</u>	91.7%	90.5%	90.0%
地歴・公民	3	47.2%	<u>44.8%</u>	50.3%	47.5%	46.8%	50.1%	48.2%
	4	41.2%	44.4%	40.1%	<u>39.1%</u>	42.0%	41.8%	46.9%
	3+4	88.4%	89.2%	90.4%	<u>86.6%</u>	88.8%	91.9%	95.1%
数学	3	51.7%	48.1%	48.2%	<u>46.0%</u>	48.7%	50.8%	49.0%
	4	35.7%	31.7%	41.5%	46.9%	<u>31.2%</u>	37.7%	43.4%
	3+4	87.3%	<u>79.8%</u>	89.7%	92.9%	79.9%	88.5%	92.4%
理科	3	49.8%	<u>44.4%</u>	50.9%	49.0%	45.4%	51.6%	50.5%
	4	35.9%	31.1%	37.1%	36.0%	<u>27.0%</u>	35.1%	38.2%
	3+4	85.6%	75.5%	88.0%	85.0%	<u>72.4%</u>	86.8%	88.7%
保体	3	47.0%	46.9%	43.6%	<u>43.2%</u>	47.2%	47.5%	49.6%
	4	44.9%	43.3%	50.3%	48.7%	<u>42.6%</u>	45.5%	44.3%
	3+4	91.9%	90.1%	93.9%	91.8%	<u>89.8%</u>	93.0%	93.9%
芸術	3	47.3%	43.8%	51.0%	43.8%	<u>42.7%</u>	52.2%	48.5%
	4	46.2%	49.7%	42.9%	50.8%	51.0%	<u>40.1%</u>	42.7%
	3+4	93.5%	93.5%	93.9%	94.6%	93.7%	92.3%	<u>91.1%</u>
外国語	3	49.4%	<u>45.0%</u>	48.6%	50.5%	47.8%	51.3%	47.3%
	4	40.9%	45.9%	42.2%	41.7%	41.3%	<u>38.3%</u>	46.8%
	3+4	90.3%	90.9%	90.8%	92.2%	<u>89.1%</u>	89.6%	94.2%
家庭	3	45.3%	<u>44.3%</u>	47.8%	48.1%	48.4%	47.8%	47.8%
	4	49.4%	50.0%	47.5%	47.8%	<u>46.5%</u>	47.8%	49.1%
	3+4	94.7%	<u>94.3%</u>	95.3%	95.9%	95.0%	95.6%	96.9%
情報	3	56.6%	52.5%	<u>49.8%</u>	51.5%	51.9%	55.2%	51.9%
	4	35.7%	<u>31.6%</u>	39.4%	41.1%	34.7%	38.0%	41.1%
	3+4	92.3%	<u>84.2%</u>	89.2%	92.6%	86.5%	93.3%	92.9%

※塗りつぶし太字は教科内で最も割合の高いもの、下線は教科内で最も割合の低いものを表します。

(参考：評価項目)

大項目	設問	小項目
授 業 の 在 り 方	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学 習 の 状 況 に 関 心	4	授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。